

2013年度

入学試験問題

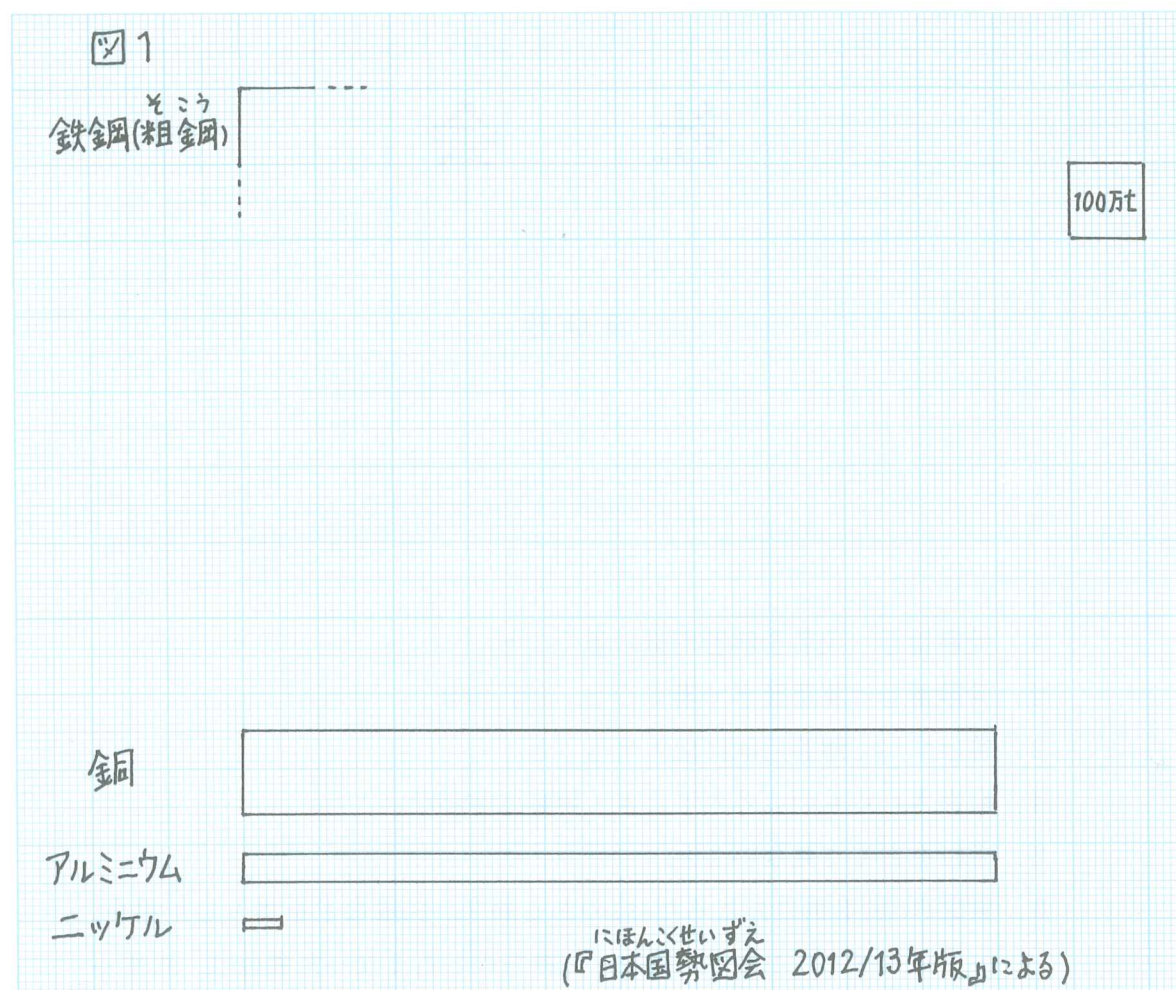
社 会

40分

1. 受験番号・氏名を解答用紙に書くこと。
2. 受験番号は算用数字で書くこと。(例:123)
3. 答はすべて解答用紙に記入すること。
4. 配布されたもの以外の下じき・用紙は使わないこと。
5. 用紙を立てて見ないこと。
6. 質問(印刷不明のところだけ)のある場合、鉛筆などを落とした場合、トイレに行きたくなった場合、気持ちのわるくなった場合は、だまって手をあげること。

I. 図と表をみて問に答えなさい。

問1 図1は、2010年に国内で使われたおもな金属の消費量（重さ）を面積でくらべようとしたものです。2010年の鉄鋼（粗鋼）の生産量は1億960万トン、輸入量は510万トン、輸出量は4660万トンでした（『日本国勢図会 2012/13年版』による）。この年の国内の消費量を図1を使って示しなさい。その際、銅やアルミニウム、ニッケルとの比較ができるような図を書きなさい。1平方センチメートルを100万トンとします。



問2 表1は、おもな金属の価格を調べたものです。表1にある6種類の金属の1gあたりの価格を答えなさい。また、6種類の金属を1gあたりの価格によって、1000～1万円、100～1000円、10～100円、1～10円、0.1～1円、0.1円未満に分けなさい。

表1

金属	重量	価格（円）
アルミニウム	1 t	216000
金	1 g	4541
銀	1 kg	90700
鉄鋼	1 t	56500
銅	1 t	685000
ニッケル	1 t	1600000

（『日本経済新聞』2012年10月6日朝刊をもとに作成）

問3 表2は問2に出てきた金属について、2009年における世界全体での生産量をあらわしたものです。金属の生産量と価格にはどのような関係がみられるでしょうか。簡単に説明しなさい。

表2

金属	生産量
アルミニウム	3690万 t
金	2450 t
銀	21800 t
鉄鋼	12億3000万 t
銅	1840万 t
ニッケル	140万 t

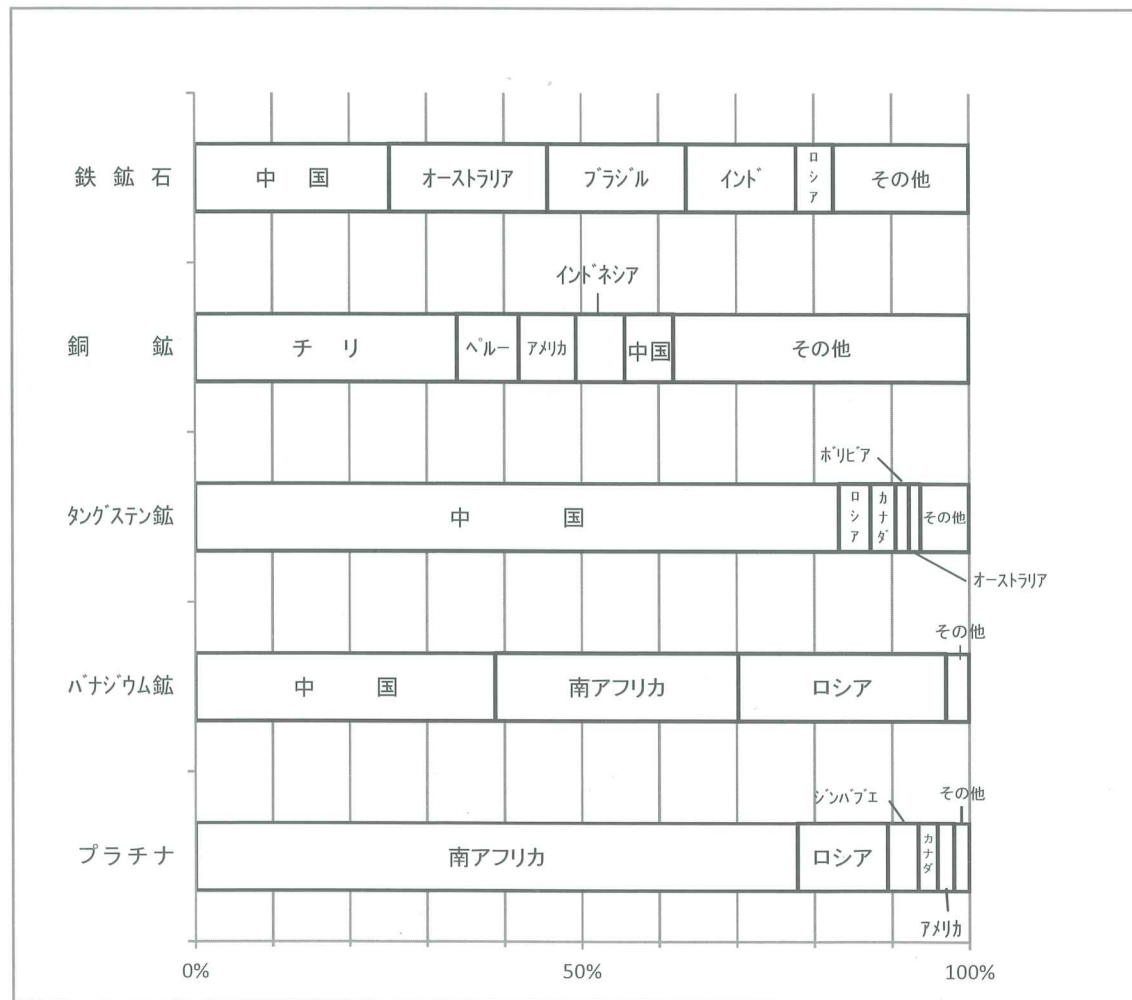
注)金・銀・ニッケルは鉱石中に含まれる量。

（『日本国勢図会 2012/13年版』をもとに作成）

問4 金属の中には、地球に存在する量は少なくても、現代の生活や産業を支えるために欠かせないものがあります。例えば、カッターやドリルに使われるタングステン、パイプラインや船に使われるバナジウム、電子機器や自動車に使われるプラチナがあります。

図2から読み取ることができる、タングステン、バナジウム、プラチナに共通する特色を、鉄鉱石や銅鉱と比べて説明しなさい。

図2 おもな金属鉱石の産出量の国別内訳（2009年）



（『データブック オブ・ザ・ワールド 2012年版』による）

II. 文章を読んで問に答えなさい。

日本で金属器が使われはじめたのは、弥生時代からです。それまでは、動物の骨でつくった道具のほかに、石器や土器が使われていました。

金属器には2種類ありました。①青銅器は祭りや儀式に用いられ、鉄器は農具や工具に使われました。

古墳時代には、古墳に②鉄でつくられた武器がおさめられるようになりました。渡来人が様々な文化を伝えた中に、鉄をつくる技術も含まれています。

問1 下線部①をつくるのに使われた、銅以外の金属を答えなさい。

問2 下線部②の例を1つあげなさい。

日本に仏教が伝わると、蘇我氏や聖徳太子らによって寺が建てられ、金属製の仏像がつくられています。

大化改新後、政府は中国にならった国づくりをすすめました。③貨幣をつくることもその一つです。

奈良時代には中国から僧を招いただけでなく、東大寺に④大仏をつくりました。中国との貿易もありました。また、政府が鉄をつくるようになっていました。地方で採れた砂鉄が、税として都に納められるようにもなりました。砂鉄は、東は現在の千葉県から西は現在の福岡県にまで分布しています。分布の中心は⑤兵庫県から広島県にかけての中国山地沿いの地域だったと考えられています。『古今和歌集』に、「まがねふく 吉備の中山 おびにせる ほそ谷川の おとのさやけき」という歌がありますが、「まがねふく」とは「真金吹く」と書き、鉄をつくる様子を表現したものだということです。また、『日本霊異記』という本には、いまの岡山県美作市（当時の美作国英多郡）に砂鉄を採る山があり、奈良時代に都から赴任してきた役人が砂鉄を掘らせていたと書かれています。

政府がつくったり、地方から都に納められた鉄は、⑥政府が行う開墾に使われたほか、政府に功績のあったものや役人たちへの給与にも用いられていました。

問3 下線部③について、都が平城京にうつされたころにつくられた貨幣を答えなさい。

問4 下線部④をつくるのに使われたおもな金属を2つあげなさい。

問5 下線部⑤の範囲を、解答用紙の地図に示しなさい。

問6 下線部⑥について、政府はたくさんの土地を開墾する必要がありました。何のためか答えなさい。

平安時代にも、中国との貿易は続きました。⑦鎌倉幕府も、室町幕府も中国との貿易を推進しました。刀は日本の重要な輸出品でした。

問7 下線部⑦が鎌倉に整備した国際港を答えなさい。

1543年に、種子島に流れ着いた外国人が、鉄砲を伝えました。鉄砲は、はじめは輸入品でしたが、すぐに国内でつくられるようになりました。

江戸時代になって平和な時代になると、鉄製の農具が進歩しました。原料の鉄は、昔から「たたら製鉄」と呼ばれる方法でつくられました。たたら製鉄では、粘土でつくられた「たたら炉」に砂鉄と（⑧）を入れ、ふいごで風を送りながら高温で熱します。

江戸時代には「天秤フイゴ」と呼ばれる足踏み式のふいごが開発されて大量の風を効率よく送ることが可能になり、製鉄量も増えました。江戸時代の中国地方では、「大だたら」という大規模なたたらが盛んにつくられました。大だたらでは、1度の製鉄に2～3日かかります。必要な砂鉄が約10トン、（⑧）が約10トンであったそうです。

問8 （⑧）の中には同じ言葉が入ります。ア～エから1つ選びなさい。

ア 硫黄 イ 石炭 ウ 石油 エ 木炭

日本で鉄鉱石を用いた近代的な製鉄が始まったのは、1857年のことです。この年、大島高任が、現在の岩手県釜石市で、鉄鉱石を用いて西洋式の製鉄に成功しました。大島はまだ⑨鎖国の時代から外国語の書物をたよりに、西洋の製鉄技術を学んだ人でした。

江戸幕府を倒した明治の新政府は、欧米の技術や文化を積極的にとりいれました。政府は、国づくりに鉄が重要であると考えていました。欧米の技術を取りいれて、1874年には釜石に製鉄所をたて、日清戦争後の1901年には、⑩八幡製鉄所を開業させています。

問9 下線部⑨のころ、日本と貿易していた西洋の国を答えなさい。

問10 下線部⑩の八幡製鉄所について、問に答えなさい。

（1）八幡製鉄所がたてられた九州地方の県名を答えなさい。

（2）八幡製鉄所が（1）の県にたてられた理由の1つは、鉄の生産に必要な鉄鉱石を中国などから輸入しやすかったことです。もう1つは鉄を生産する上で欠かせない原料が、このころ九州地方で多く産出されたことです。その原料を答えなさい。

（3）八幡製鉄所が開業したころ、生産された鉄がどのように使われたかについてのべた文として正しいものをア～エから1つ選びなさい。

ア 生産台数が大幅に増えた自動車の部品に使われた。

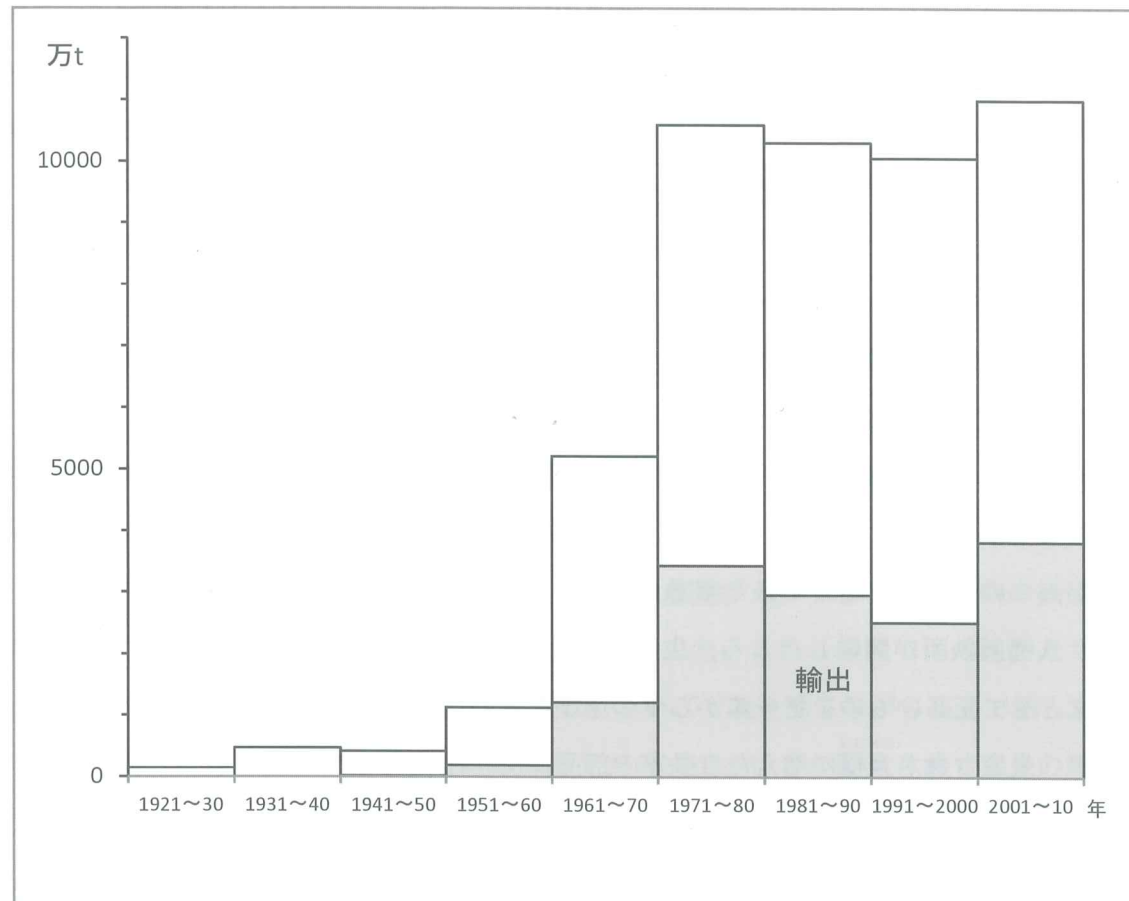
イ 軍隊の拡大がすすめられるなかで、たくさんの戦闘機の機体に使われた。

ウ 日本各地に鉄道が開通するなかで、大量のレールに使われた。

エ 日本各地が電信で結ばれるなかで、大量の電線に使われた。

Ⅲ. 図3は、日本の鉄鋼（粗鋼）の生産量の推移をグラフにしたものです。これをみて問に答えなさい。

図3 日本の鉄鋼（粗鋼）の生産量の推移（10年平均）



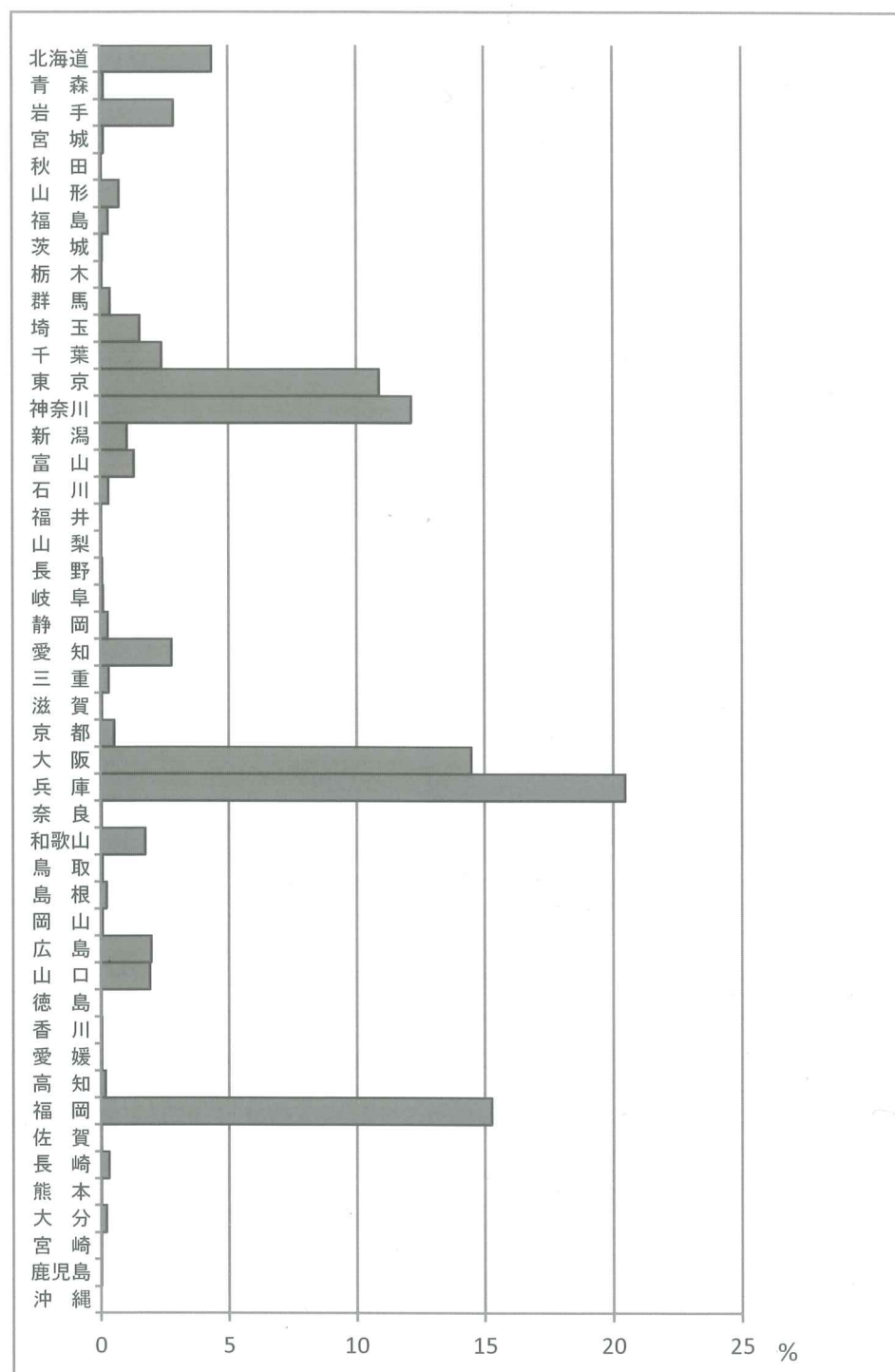
（日本銀行編『明治以降本邦主要経済統計』1966年、『数字でみる日本の100年』改訂第5版,『日本国勢図会 2010/11年版』～『日本国勢図会 2012/13年版』をもとに作成）

問1 図3をみると1931～40年の生産量は、1921～30年よりも大きく増えています。1931～40年に日本が多く鉄を必要とした理由を答えなさい。

問2 1940年ごろ、鉄の生産に必要な屑鉄などの鉄類を、日本がもっとも多く輸入していた国の名前を答えなさい。

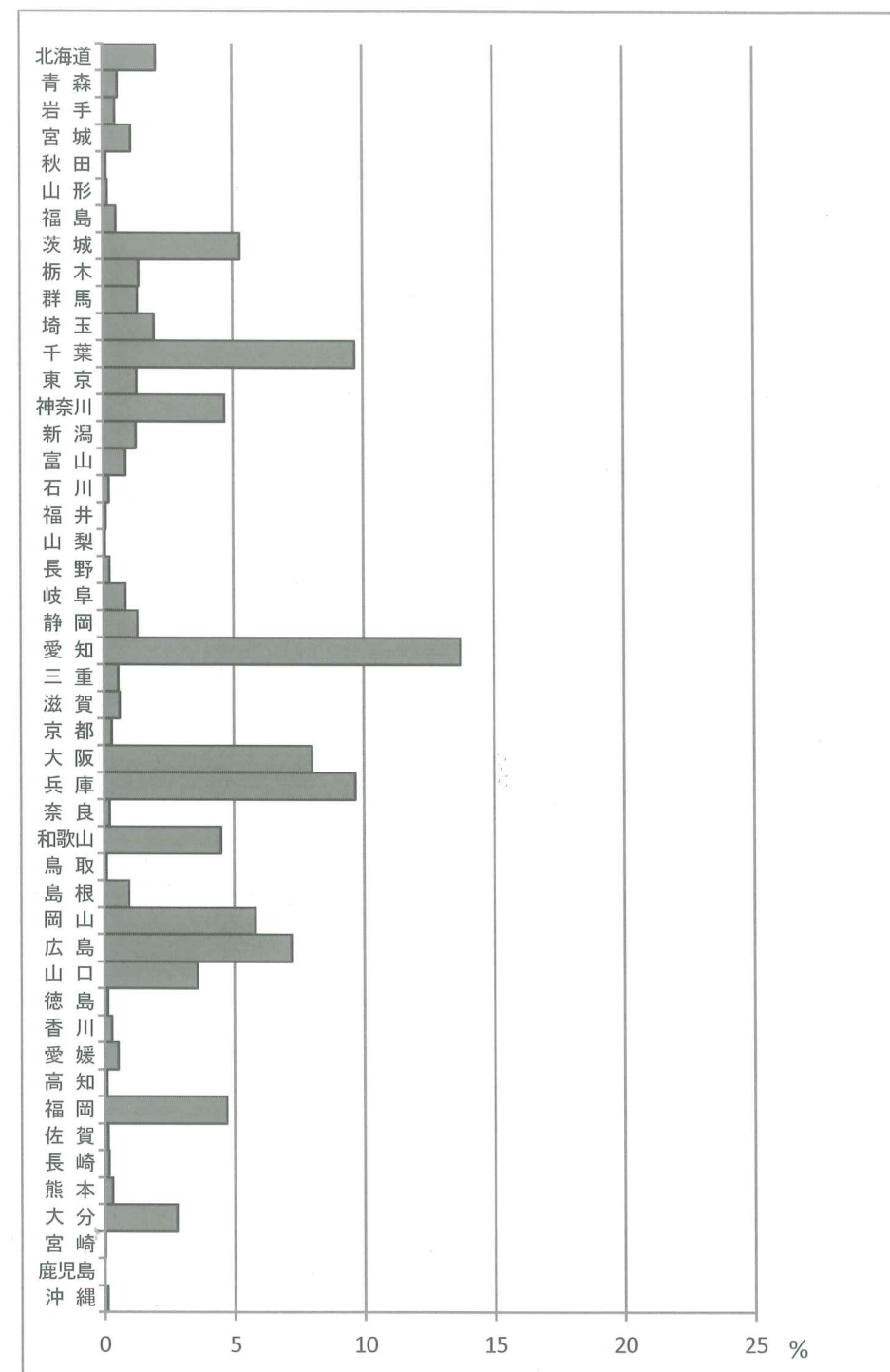
問3 図3をみると、鉄鋼生産量は戦後大きく増えていることがわかります。生産量が増えた理由は何ですか。鉄の使いみちや、図4と図5をくらべてわかる鉄鋼業の移り変わりにもふれながら、説明しなさい。

図4 都道府県別鉄鋼生産額の比較(1955年) 全国の生産額に占める各都道府県の割合(%)



(通商産業省編『昭和30年 工業統計表』による)

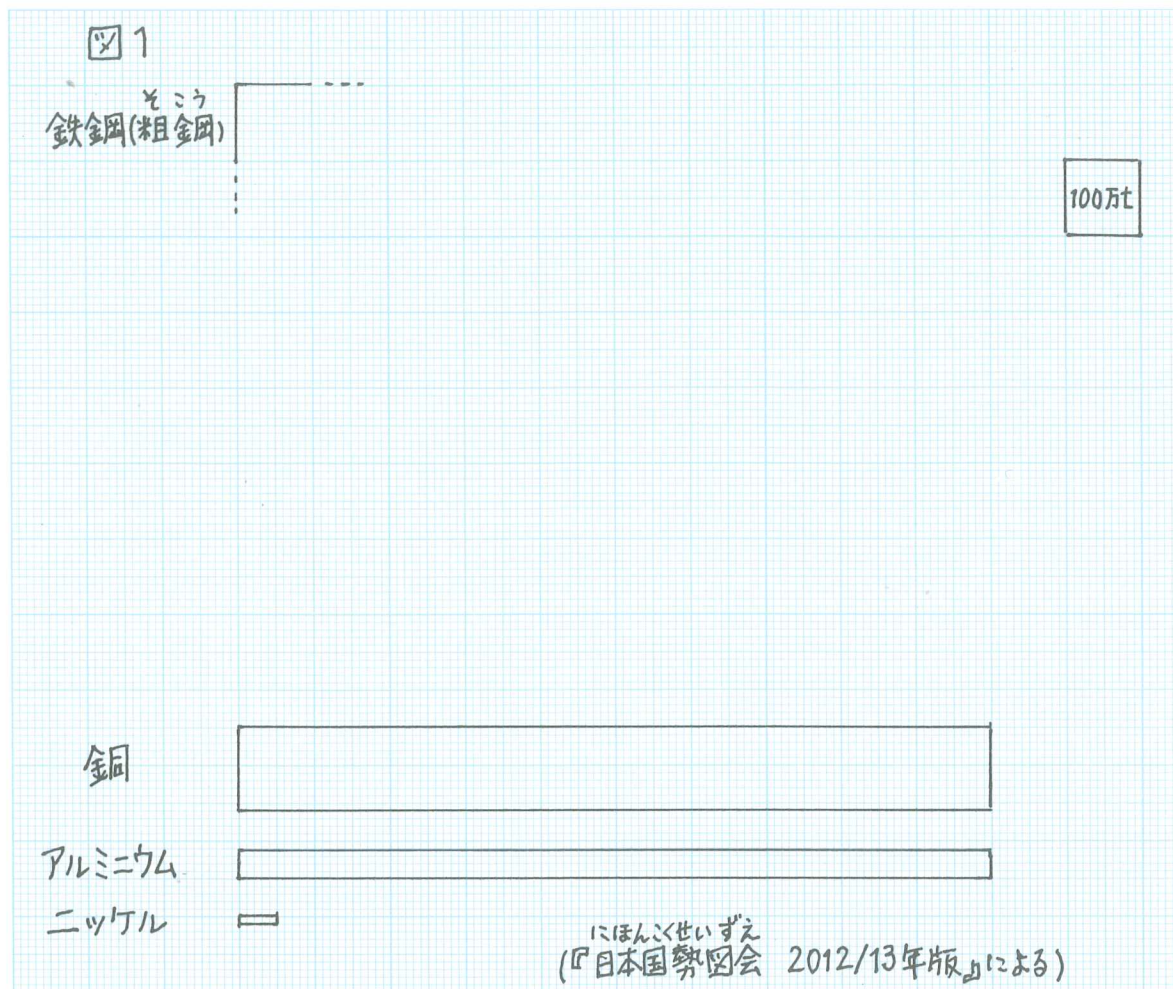
図5 都道府県別鉄鋼生産額の比較(2005年) 全国の生産額に占める各都道府県の割合(%)



(経済産業省編『平成17年 工業統計表』による)

I.

問 1



問 2

アルミニウム	円	1000～1万円
金	円	100～1000円
銀	円	10～100円
鉄鋼	円	1～10円
銅	円	0.1～1円
ニッケル	円	0.1円未満

問 3

問 4

II.

問 1

問 2

問 3

問 4

問 5



問 6

問 7

問 8

問 9

問 10

(1)

(2)

(3)

III.

問 1

問 2

問 3

受験番号

氏名

評点